

# 清水町 DX 推進方針

2023.10 静岡県清水町

## 序

清水町DX推進方針とは、清水町（以下「町」という。）のDX推進における方針、体制等を定め「DXとは何か」といったDXの定義や推進ビジョンを示すものである。

また、DX推進の具体的取組を定めた実施手順（以下「実施手順」という。）は、必要に応じて別に策定する。

期間は令和7年度末までとし、社会情勢の変化や国・県の動向など、町を取り巻く状況の変化を踏まえ必要に応じて改定を行う。

# 目次

---

I. DXとは何か	
▪ 国・県の動向と町の現状	4
▪ デジタルの3段階	4
▪ 広義のDX	5
II. 町のDX	
▪ DXの定義	6
▪ ユーザーの範囲	6
▪ 推進体制	7
III. DXを実現する3つの変革	
▪ 3つの変革	8
▪ 意識変革	8
▪ 組織変革	9
▪ 自己変革	9
IV. 自治体DXの推進	
▪ 自治体DX推進計画	10
▪ 町の実践	11
用語の解説	12
おわりに	13

# DXとは何か

## 国・県の動向と町の現状

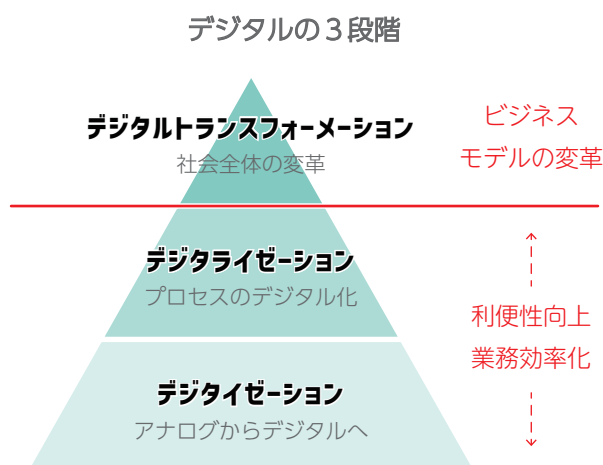
国においては、令和2年12月に「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」を閣議決定し、デジタル社会のビジョンとして「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズにあったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」を掲げ、同時に「自治体DX推進計画」を決定し、地方自治体の重点取組事項を具体化した。

また、県においても「誰にも優しく、誰もが便利に、安全・安心、そして豊かに」を基本理念とする「ふじのくにDX推進計画」を策定し、目指す姿として「デジタル技術が支える新しい静岡」を掲げている。

町においては、平成30年6月に策定した「清水町ICT戦略（行政情報化編）」に基づき、デジタル化を推進しており、令和5年町民ふれあいアンケートでは、インターネットを利用している人の割合は84.1%、うち70.3%がLINEやインスタグラムなどのSNSを活用しており、また、電子申請も普及するなど、デジタル整備への環境が整いつつある。

## デジタルの3段階

デジタルには、アナログをデジタル化する「デジタイゼーション」、プロセスをデジタル化する「デジタライゼーション」、ビジネスモデル・行政モデルの根本からの変革である「デジタルトランスフォーメーション（DX）」の3段階がある。



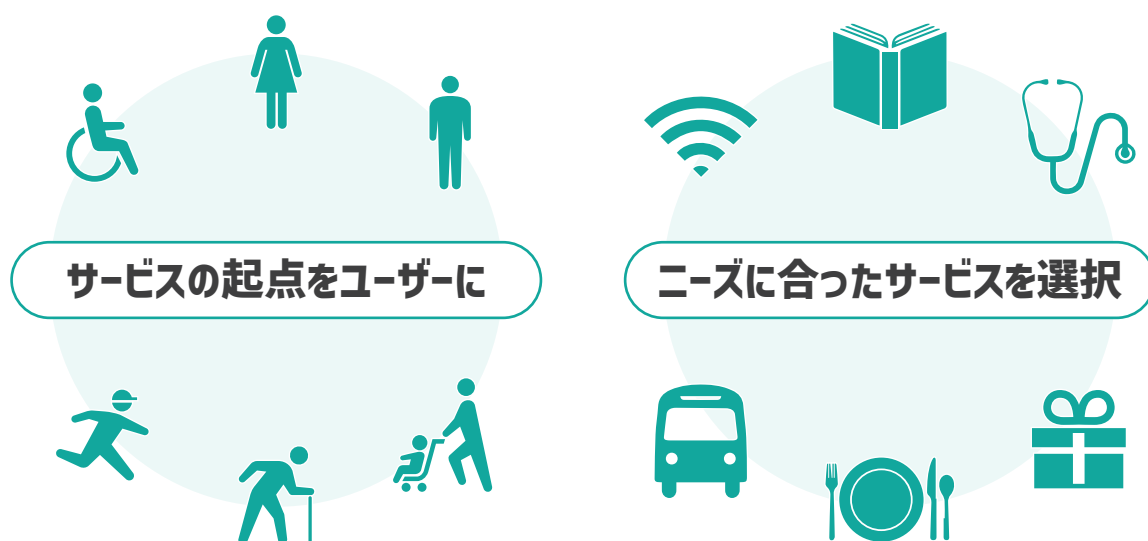
デジタイゼーションやデジタライゼーションが、主に情報担当や各担当部署単体での「利便性向上」や「業務効率化」を目的とした取組とすれば、DXは、強いリーダーシップのもと組織横断的な取組により文化・風土や体制を変えることで実現する「抜本的な変革」を意味するが、ツール導入やプロセス再構築といったデジタイゼーション・デジタライゼーションは、DXの実現に向け必要条件である。

これまでのやり方では対応できない予測不能な現代。

「VUCAの時代/V: Volatility (変動性)、U: Uncertainty (不確実性)、C: Complexity (複雑性)、A: Ambiguity (曖昧性)」とも言われ、「正解のない課題にどう向き合うか」といったこれまでにない難題に直面し社会全体の変革が求められるなか「DX」が注目されている。

「DX」とは、単なるデジタル化やICT活用ではなく、本質は「ユーザー(人)」そのもので、「デジタルによる変革を通じて、『供給者』がサービスの起点を『作る側』から『受ける側』にシフトさせることで、『受益者』は一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、さまざまな幸せを実現できること」とされる。

**DX ~~≠~~ デジタル ▶ DX とは ユーザー中心**



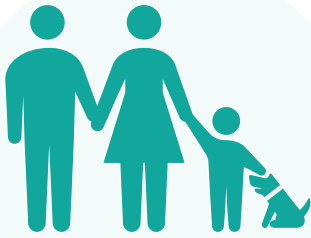
## 町のDX

---

### 町のDXの定義

ユーザー（人）を中心とした、  
デジタルによる行政モデルの根本的な変革

### ユーザーの範囲



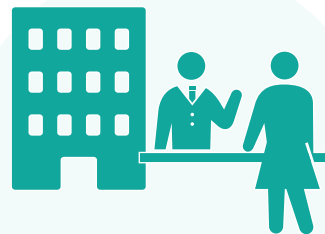
**地域住民**



**関係団体等**



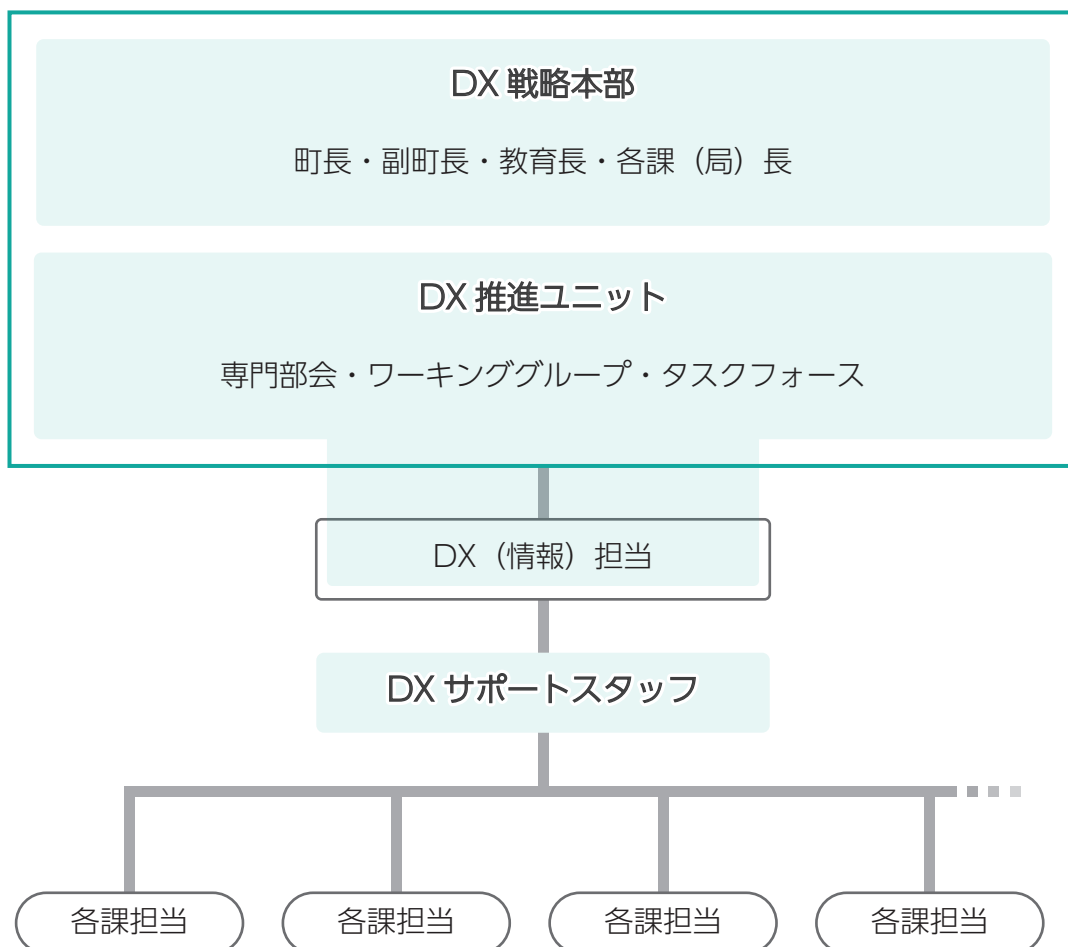
**地域企業等**



**役場職員**

## 推進体制

1. DX戦略本部  
町長、副町長、教育長、各課（局）長をメンバーとするDX推進の最高機関
2. DX推進ユニット  
専門部会等とDX（情報）担当で構成し、実務レベルでの検討・検証を行う
3. DXサポートスタッフ  
DX戦略本部やDX推進ユニットと各課担当との調整役として、必要に応じてDX推進本部において任命する



## DXを実現する3つの変革



### マインドセットの変換

マインドセットとは、経験や先入観から作られる無意識の思考パターンや固定化された考え方で「固定マインドセット（能力はもともと決まっています）」と「成長マインドセット（能力は努力によって成長する）」に大別される。組織においても個人においても、失敗を恐れず高い壁を乗り越えようとする「成長マインドセット」を持ち、新しいことに挑戦し続ける風土づくりが必要となる。

### 1 to 0の改革

どんな組織も常に、部分最適などのごく少数の要因によって全体のパフォーマンスが制限される。部分最適をどれだけ積み上げても全体最適にはならず、全体のパフォーマンスを向上させるためには、明確化された価値に従って「何をするか」ではなく「何をしないか」を決め、より全体的な視点で物事を捉える必要がある。



---

## 組織変革

共通の目的に向かって変化と革新を促す仕組みを整える

### 柔軟な組織

効率化とコスト削減を目的に業務標準化が進むと、官僚制によるルールやマニュアルに縛られ自主性を発揮する余地が残らない。また、担当ごとに業務の部分最適が進み、部門間の新たな協力や利害調整を要する革新的なアイデアに強い反発が起こる。

今後の行政経営には、さまざまな価値観を持った個人の知恵を集結し、一人では導き出しえない答えを組織として創発していくことが求められる。

### リーダーシップ・フォロワーシップ

DX推進には、強力なリーダーシップと全庁横断的な取組みが必要だが、真の「リーダーシップ」を発揮するためには、従うだけのメンバーではなくリーダーを理解し行動する「フォロワー」の存在が不可欠である。

強力なトップマネジメントのもと、積極的な「貢献力」と批判的な意見も言える「提案力」を持った「フォロワー」とともに、DXの司令塔となるDX担当と各業務担当が緊密に連携する体制整備が必要となる。

## 自己変革

個人の自主性と成長を尊重し一人ひとりが創造力を発揮する

### 課題設定型人材

決められたことを手順通りに処理する能力は、人間よりもコンピュータの方がはるかに高く、ICTの進展は、複雑な非定型業務さえも可能としている。

そうした傾向はますます進み、DXにおいては、これまで必要とされた「マニュアルや先進事例を参考に与えられた課題を正確・迅速に遂行する『課題解決型人材』」に代わり、「現状を把握・分析し、自ら課題を発見・設定できる『課題設定型人材』」が求められる。

### リスキリング

リスキリングとは「技術革新やビジネスモデルの変化に対応し、新たな価値を創造するための新しい知識やスキルを習得すること」で一般的にデジタルスキルを指す。

働き方が多様化するなか、求められるスキルが変化し続ける現代においては、新たなスキルの習得や今あるスキルの棚卸しとアップデートもあわせ、自発的に考え、変化に柔軟に対応できる人材が必要とされる。

# 自治体DXの推進

## 自治体DX推進計画

### 1. 自治体DX推進計画とは

「デジタル社会の実現に向けた重点計画（2022年6月7日閣議決定）」における自治体関連の各施策について、自治体が重点的に取り組むべき事項・内容を具体化するとともに、総務省等の支援策をとりまとめたもの

### 2. 対象期間

2021年1月から2026年3月まで

### 3. 体制の構築

- ①組織体制の整備
- ②デジタル人材の確保・育成
- ③計画的な取組
- ④都道府県による市区町村支援

### 4. 重点取組事項

- ①自治体情報システムの標準化・共通化  
基幹系業務システムについて、2025年度末までに国の策定する標準仕様に準拠したシステムへ移行する
- ②マイナンバーカードの普及促進  
マイナンバーカードの利用拡大等、利便性を高める取組を推進するとともに、市町村における交付体制の強化に向けた支援を行う
- ③自治体行政手続きのオンライン化  
利便性向上に資する手続きについて、マイナポータルからマイナンバーカードを用いてオンライン手続きを可能にする
- ④自治体のAI・RPAの利用促進  
AI・RPA導入ガイドブックを参考に、AIやRPAの導入・活用を推進
- ⑤テレワークの推進  
導入事例やセキュリティポリシーガイドライン等を参考に、テレワークの導入活用を推進
- ⑥セキュリティ対策の徹底  
改定セキュリティポリシーガイドラインを踏まえ、適切にセキュリティポリシーの見直しを行い、セキュリティ対策を徹底

自治体DX推進計画における町の取組

	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
推進体制	組織整備・人材育成		
情報システム 標準化・共通化	移行準備		移行・運用
マイナンバーカード の普及促進	普及促進		
手続オンライン化	オンライン可能手続きの拡大		
AI・RPA	検証・実証実験		
テレワーク (リモートワーク)	検証・実証実験		
セキュリティ対策	運用・見直し		

DXに関する取組について、詳細を定めた実施手順等は必要に応じて別に策定する。

---

## ■用語の解説■

- AI (Artificial Intelligence: /人工知能)  
言語理解や推論、問題解決などの知的行動をコンピュータに行わせる技術
- DX (Digital Transformation)  
デジタル技術を浸透させ人々の生活をより良い方向へ変革させること
- ICT (Information and Communication Technology)  
「情報通信技術」と訳され、ネットワークによる情報や知識の共有、活用法、方法論も含まれる
- RPA (Robotic Process Automation)  
ソフトウェアロボットによる業務の自動化
- SNS (Social Networking Service)  
利用者同士が交流できるインターネット上の会員制コミュニティサイト
- VUCA  
Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字をとった言葉で、予測困難な状況を意味する
- デジタイゼーション  
アナログデータをデジタルデータに変換すること
- デジタライゼーション  
業務プロセス全体をデジタル化すること
- テレワーク  
情報通信技術を活用した時間や場所にとらわれない柔軟な働き方

## おわりに

本町のこれまでのICTへの取り組みは、DXの前提ではあるもののDXそのものではない。

このことは、DXが単なるICTのことではなく、また利便性向上や業務効率化のことでもなく、「デジタルを活用した行政モデルの根本的な変革を意味し、抜本的な組織の再編成を伴うもの」であることを意味している。

今後デジタルが人々の生活にますます深く入り込むなか、行政も例外ではなく、デジタルテクノロジーの急速な発展と浸透が、町民生活だけでなく行政経営に何をもたらすのかを考えながら「清水町のDX」を推進していかなければならない。

